



# 舞鶴医療センター便り

## 慢性硬膜下血腫とは

ごく軽微の外傷後、1～2ヶ月かけてゆっくり頭蓋内（脳を覆う硬膜という膜と脳の隙間）に血腫が貯留し、脳の圧迫により頭痛、歩行障害、片麻痺、失語症（うまくしゃべれない症状）、意識障害などを生じる病気。

高齢者、脳卒中後などで転倒しやすい方、脳梗塞後の抗血小板、抗凝固治療を受けている方（血液の流れを良くするお薬を飲んでいる方）、飲酒などで肝機能障害のある方などに起こりやすい病気です。

### 検査

頭部 CT で簡単に診断できます。右の図のように、脳の外側に液が貯留し、本来左右対称である脳が圧迫されて歪んでいることがわかります。



硬膜下に  
貯留した血腫

### 治療

局所麻酔下に穿頭術（頭蓋骨に小さな孔をあける）を行い、貯留した血腫を洗い流します。通常30分から1時間程度で終了します。再貯留防止のため、1日は創部にチューブを留置き、翌日までベッド上で安静にします。軽症の場合は手術翌日から食事や歩行を再開します。ほとんどのケースでは1週間程度で退院が可能です。

### 問題点や合併症

約1割の症例で再発します。再発すると再度同じ手術を要します。

血腫が固く、穿頭術で洗浄できないことがあります。この場合は全身麻酔下に開頭手術を行います。

### 予後

再発の有無を確認するため、数ヶ月の間は定期的な受診が必要ですが、ほとんどの方は後遺症を残さず元気に回復します。

（文責：脳神経センター部長 井上 靖夫）

発行元：舞鶴医療センター 広報委員会